

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600053		
法人名	株式会社 ニ千翔		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19-8		
自己評価作成日	平成22年12月14日	評価結果市町村受理日	平成23年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600053&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 入居者の尊厳の保持
 - 入居者がどんな状態であろうと、職員の先輩として、人としての尊敬を忘れず接するように努めています。
 - 入居者の失敗に対し、尊厳が傷つかないように努めています。
- 入居者が生きがいを感じられる生活
 - 個人個人に合った役割や、本人の希望を活かした生活に努めています。
 - 自由な生活、変化のある生活を目指し、外出・外食、施設内での食事の工夫や誕生会等のイベントを積極的に実施するようにしています。
 - 家庭的な雰囲気作りに努め、会話のある生活を心がけています。
- ご家族との連携
 - 最低月1回は面会をして頂くようにしています。
 - 後家族面会の折は必ず面談をし、生活状況・健康状態・変化等を説明し、ご家族の意見・要望をお聞きし取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の新興住宅街に位置するホームは、利用者の住みやすさに配慮した建物構造で、居間兼食堂のワイドな開口部（ガラス窓と非常口）は、内部の明るさと景観の見やすさを提供し、居室やトイレ、浴室なども十分な広さと清潔感があり、利用者はゆったりと安心して暮らしています。職員は、利用者の尊厳を大事にしながら、家庭的な雰囲気の中で、その人らしい生活が維持できるよう努力し、戸外に出る楽しみを感じて頂けるよう日常的な散歩や買い物、一人ひとりの希望に応じた外出、外食や祭り見学など、変化のある生活支援に努めています。家族や知人の方々が、訪れやすいような雰囲気作りにも配慮しているため、家族の来訪も非常に多く、職員が気軽に相談に応じ、利用者の健康状態や暮らしぶりを丁寧に教えて頂けると喜んでいます。運営法人は、グループホーム単独の事業ですが、利用者を最後までお世話する方針から、重度化や終末期まで医療機関と緊密な連携を図りながら対応しており、家族からも頼りにされているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作成し、リビングに掲示して全職員が共有に努め。実践に取り組む努力をしている。	ホームは、地域との連携を踏まえた独自の理念を持ち、日常の業務を通して理念を確認し、共有するように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の見学受け入れやお祭りに行くなどはしているが、日常的に交流しているとはいえない。	利用者は、祭り見学、散歩や買い物などで地域との接触があり、さらに小学生の見学もあるなど、地域との交流が徐々に進んでいます。	新興住宅街に位置する立地条件から、ホームと地域との連携は困難な状況ですが、町内会行事への積極的参加やホーム主催行事に周辺住民の方々の招待など、地域との連携強化を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の数箇所のグループホームと地域へ発信していこうという取り組みを始めた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の活動や、評価への取り組みを報告し、会議で話し合いの記録をミーティングで発表し検討している。	運営推進会議は定期的開催し、報告事項の他、災害対策への協力要請やホーム運営についての意見交換が行われています。	会議の外部出席者が非常に少ないため、町内関係者などの参加を求め、ホームに対する活発な意見を頂き、運営に反映させる事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や避難訓練に参加してもらい、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者は、行政担当窓口で随時訪問し、運営に関する相談や情報交換を行っています。さらに、市内グループホーム連絡会においても行政関係者と接触しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに沿って拘束の無いケアに努めている。	身体拘束防止に関する各種マニュアルは整備され、会議や研修などで職員も内容を理解しています。ホーム玄関やユニット入口の施錠も夜間のみです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し資料を基に理解を深め虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会など全員が学ぶ機会を持っているとはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時や、契約・解約時に詳しく説明し、話し合い理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。できる限り入居者様と接し、意見の聴取に努めている。又、ご家族に運営推進会議に参加していただいている。	家族の来訪時や電話、お便り等で利用者の情報を提供し、意見や要望等は、毎日の打合せやミーティングで協議し、運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見を聞いたり、常時意見や提案を言いやすい雰囲気作りに努めている。	管理者は、日常業務の中で、職員と話し合いをしています。個人面談も実施して意見や提案を把握し、運営に活かすようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じて昇給を検討し、介護職員処遇改善交付金を活用している。ユニット毎にホーム長・介護主任を設置、任命した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会の確保に努めている。又、個々の資格取得の機会も、確保できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと交流し、ネットワーク作りや、お互いの質の向上に努める取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に、本人に施設を見学していただき、不安や心配を取り除くよう努めている。又来訪できない方にはこちらから出向き面談する。入居開始時には意見や希望を聞き信頼を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、ご家族にも見学していただき、話し合いを重ね不安の解消に努める。入居以降も心配事が無いか等の話をする機会を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人の情報を元に、一人ひとりに合った対応に努めている。又、ご家族の状況により、個別の必要とする支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を多く作り、昔話の中で教えてもらう場面を多く作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話をしたり、来訪していただいたり、お互いに安心できる関係が築けるよう心がけ、入居者様の心身状況・変化についてご家族様と話し合うよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来たときには、お茶を出しゆっくりとお話ができる雰囲気作りをしている。	家族や知人が、訪ねて来やすいような雰囲気作りに配慮しており、利用者の希望により、昔馴染みの場所等への外出支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や相性を踏まえて、席を決めたり、少人数で何かを行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで退去者の中に、継続的なかわりを必要とする方はいないが、今後も相談に応ずる旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの居室、生活スタイル、及び思いや希望に答える為の手段として、入居者様担当制度を設け、より個別のニーズにあった対応を心がけている。	利用者一人について職員2人が担当し、利用者の思いや意向把握が困難な際は、職員同士で相談し合いながら、利用者本位のケアサービスに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく面会に来られた方たちからも、思い出話や嗜好等を聞き、全職員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に気を配り、個別に記録し、毎朝・夕の申し送りで全職員に伝わるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化時や気づいたことを、家族や関係者と話し合い、より良い介護計画となるよう努めている。	介護計画は、アセスメントやモニタリングを繰り返しながら見直し、ユニット会議等で、計画内容を全職員の共有としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の記録に記載し、個人のノートに病状変化等を詳しく記載して、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が行けない病院受診や、緊急時の受診は相談しながら行うようにしている。買い物も相談の上、家族に代わり行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力を得て避難訓練を行っている。運営推進会議には民生委員が参加している。又、メイクボランティアにも協力してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った病院受診ができるよう努めている。又、訪問看護と相談しながらホームとしてのかかりつけ医が訪問診療で健康管理を実施している。	内科系の定期訪問診療と希望に応じて歯科、皮膚科の訪問診療が有りますが、以前からのかかりつけ医の受診も自由です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していない。訪問看護ステーションと契約し、訪問看護以外に週1回の定期的な健康管理を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は家族の希望や了解を得た上で、医師に病状説明や治療計画を聞き、相談員とよく相談の上早期退院できるように援助している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取り介護の方針について説明を行い、かかりつけ医・訪問看護・ホームが、本人・ご家族の希望を聞きながら、状況に合わせて話し合い・改善しながら取り組んでいくよう努めている。	入居時に、重度化や終末期におけるホームの方針を説明しています。利用者の状態に応じて、医療機関とも相談しながら、詳細な対応策を家族と話し合い、看取りまで取り組むようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルは作成されているが全職員が速やかに対応できるかは不安が残る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー設置済み。年2回の避難訓練を行い、夜間を想定した訓練を全員が行えるよう努めている。	年2回の避難訓練や夜間想定訓練を実施し、救命救急訓練も順次受けています。運営推進会議でも、災害時におけるホームへの協力を要請しています。	避難訓練等は積極的に実施していますが、今後は、緊急時用の食料品、備品類の備えを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、それぞれに合った声かけや対応を心がけている。又、スタッフ個々の対応の改善に努めている。	職員は、運営理念を基本としながら、日常のケアサービスの際に、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力を把握し、個々のできる中で選ぶ機会を作り、それぞれが納得できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様優先を心がけ、一人ひとりのペースで生活できるよう、可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容やメイクボランティアを利用している。希望により望む店に行ったり季節の買い物の支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	意見や希望を取り入れ献立を決めている。一人ひとりに合わせた食事形態や声かけの支援をしている。	献立は、職員が利用者の好みを反映させて作成し、食事準備や後片付け、食事を共にして一人ひとりに合わせた支援をしています。	食事のカロリー量把握や栄養バランスの確認のため、定期的に栄養士によるカロリー計算の実施を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量に配慮し、季節のものを取り入れた献立作りに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・義歯洗浄の声かけをし、できないところの介助を行っている。口腔の状態を把握し、必要に応じ歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録を参考に、排泄パターンを把握し、声かけ・誘導・交換の介助をしている。	一人ひとりの排泄チェック表で、パターンに応じた声かけや誘導を行い、紙パンツの使用やトイレ外排泄の減少などの効果が表れています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を確認し、運動や水分補給、食物繊維の多い食事などの工夫をしている。医師と連絡を取り合い、薬を使用することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調をみながらシャワーや足浴で対応している。一人ひとりの希望に合うよう努めている。	週2回の入浴を基本とし、毎日午後実施しています。利用者の体調や希望により、随時入浴やシャワー浴などを実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない場合には温かい飲み物を提供したり一緒に話をしたりしている。昼夜の区別がつかない入居者様には、リズムが整うよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストが明示されており、全職員が把握できるようになっている。誤薬防止のため名前・日付を本人と一緒に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自主性を尊重し、できる範囲で家事を一緒に行い、継続できるよう努めている。又趣味の面でも入居者様同士が楽しく誘い合えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望は、個別に対応できるように努めている。又、全員での外出もできるように心がけている。	ホームは、利用者の外出支援を重視し、日常的に散歩や公園、買い物に出かけています。また、月間行事の夕食、祭りなどのドライブや一人ひとりの希望に合わせた外出も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望により所持している。買い物には職員が付添い、なるべく本人に支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望によりその都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファが置いてあり、皆でテレビを楽しむことができる。季節ごとの飾りを皆で作し、飾り付けをしている。	暮らしやすさに配慮した建物構造で、居間兼食堂は広いガラス面の窓で明るさと見通しが良く、空気洗浄器兼加湿器の設置など、健康面にも配慮しています。壁面には季節の飾りなどで、共有空間全体に温かみのある雰囲気があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居場所を確保し、自由に会話したりお昼寝したりしている。公園側の窓辺に別の談話スペースも設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、なじみの家具など自由に持ち込んでいただき、心地よく過ごせるように工夫している。	居室は、余裕のある広さでゆったりとし、クローゼットも備わっています。利用者は、仏壇や調度品を自由に持ち込んで、のんびりと居心地の良い暮らしを楽しんでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居場所の把握や、見守りを行い危険が無いように努めている。分かり易いように名前や目印を貼るなどの工夫をしている。		